

研究雑話 (70)

人間発達の物質的基礎 (三四)・論議 (五)、形式的な部分と心をこめた部分の対立と同一

藤井力夫

前回は、スキップ動作を例に、共同運動筋における「予期的準備」の質的变化、不連続の問題についてお話ししました。共同運動筋の調節により、スキップ動作の誘発が予め違っているのです。同じ手足ですが、調節が予期的に変化。習熟したスキップ、足指によるそれ(段階六)では、当初の両肩持ち上げによる全般的な緊張(段階三)から解放されます。手足における「予期的準備」の質

的变化は、行動のまとまりを以前のものとは違ったものになります。四歳から六歳にかけての脳幹運動系の成熟を背景に、何よりもお兄ちゃんたちのように上手になりたいといった「意欲」や「誇り」がこうした変化を産み出したのでした。今回は、子どもの心における形式的でちよつと投げやりな部分と、感動して頑張ってみようと思う部分との対立と同一の問題、これについてお話ししたいと思います。これら二つの矛盾のなかに発達の原動力があると考えています。

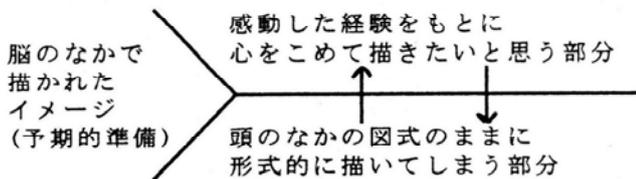
感動。これらが予期的に想起されます。形式的で図式的な関係と心をこめて描きたい部分。これらはどう描くか、これが問題です。

図Bは、ある五歳児の描画。鳥居先生の本からお借りしました。明記されていませんが、多分、スキップ動作は、片手前腕の持ち上げから、足首底屈による誘発、この移行期(段階四から五)にあると思われる。図Cに、スキップにみる共同運動との関連で描画に關係する「予期的準備」を一覧にしてみました。参照ください。なんといつても、掘り起こし、土を払ったとき

の芋の感触、毛の感覚が忘れられないのでしよう。左に描かれた二つの大きな芋。点や線で描かれた毛は、二百以上あるとのこと。基本は図式的です。中央の二人の子どもや太陽、基底線と土の中の芋。これらは頭の中にあるまま、図式的に描画。二人の子ども、首も描かれて、能力の高さを示していますが、身体全体が宙に浮いた感じ。これに比べて、芋を抜こうとしている子どもは、首もありませんし、幼く描かれています。しかし、左手は茎、右手は道具を持ち、足を踏ん張って頑張っている様子を表現。なかなか抜けなくて大変だったのでしょう。この想いが、形式的でない描き方をさせています。とても難しいことです。形式的でない描き方への挑戦。これこそ次への準備を約束しているのです。(北海道教育大学教授)

図示しました。たとえば、芋ほりに行ったときの絵を描くとき、まず、脳のなかで情景がイメージされます。描きたい場面の図式的な関係と、芋を掘り出し手で触ったときの

A. 形式的な部分と心をこめた部分の対立と同一  
描画にみる発達の弁証法(シエマ図)



B. ある5歳児の絵、「みんなといもほり」  
(鳥居昭美:1985)



C. 描画に関する「予期的準備」の発達、一指標  
スキップ動作・共同運動からみた人物画の発達  
(スキップの発達段階、前号・図A参照)

- 段階1. 走ってしまう。  
《まる》を止めることができない。  
(手首や指先を使った小さいうずまき)
- 段階2. ウマ・ギャロップの模倣ができる。  
《まる》を止めることができる。たくさん描く。  
(描く前から意味をもたせて描く、目で線を誘導)
- 段階3. スキップの開始。両肩の持ち上げによる。  
《まる》のなかに《まる》を描く。頭足人間。  
(ことばによるイメージを絵で確認しながら描く)
- 段階4. 片手前腕・回外位保持によるスキップ。  
胴体から手足がでる。まるや四角による図式画。  
(ことばで脳の中のイメージをふくらませて描く)
- 段階5. 足首底屈によるスキップ動作の誘発。  
首が描かれる。基底線によるレントゲン描画。  
(関係を表現、例:土の中の芋とそれを掘る僕)
- 段階6. 足指による予期的調節。ポルカ、跳び箱へ  
正面向き人物ばかりでなく、横向き的人物も。  
(基底線とともに横向き描画により奥行の表現へ)